

4年生でも世界の課題を「ジブンゴト」に！

～SDGsを活用して～



山田 あかり 教諭

グローバルとローカルを意識した実践を心がけている。2018年度 JICA 東京 教師海外研修(ベトナムコース)に参加。

どうしたら小学生が世界の課題を「ジブンゴト」としてとらえられるのでしょうか？長野県駒ヶ根市立中沢小学校の山田あかり先生による、4年生の総合的な学習の時間での実践をご紹介します。授業で使った独自の教材「子ども向けSDGs」もいただいたので、ぜひ参考にしてください！

Q：そもそもどうして小学生に開発教育をしようと思ったのですか？

私自身、海外に行ったり、外の世界を知ったりすることが好きなので、子どもたちにも海外の魅力を知ってほしいと思ったのが、そもそものきっかけでした。

Q：先生にとって、開発教育を実践する意義とは？子どもたちに特に伝えたい内容はありますか？

ただ海外の魅力を知らせるのではなく、2つのことを伝えたいと考えています。まず、地元である中沢を意識してもらうこと。開発教育という海外のことのようなイメージがあるかもしれませんが、「足元」を固めるというか、何か軸を持つうえで世界を見てほしいのです。もうひとつは「つながり」です。ここ中沢のような地方の町でも世界とつながっていますし、世界とつながらなければ暮らせません。子どもたちに、「世界とつながれる力」をつけてほしいと考えました。

Q：授業の導入はどのように行ったのでしょうか？

上記のような開発教育の意義を伝える形だと難しいと思い、子どもが食いついてくれるようにインパクトのある写真を紹介することから入りました。これはオススメです。私が使ったのはベトナムのゴミに関する写真です。子どもたちは珍しいものに興味関心を持つので、導入にはもってこいでした。JICA ホームページ(*1)にも色々な写真があるので活用すると良いと思います。

Q：子どもたちが世界の課題を「ジブンゴト」にするための、その後の展開を教えてください。

問題の解決方法を考えるという展開です。ただし、上から目線で途上国に負のイメージを持って「ひどい」「かわいそう」と思って欲しくなかったのが、自分たちの周囲でも似たようなことがあると意識させました。町や教室でゴミの写真を撮ってきて見せると、「ベトナムも中沢も問題は一緒だね」との声があがり始め、途上国をマイナスに捉えるような態度は生まれませんでしたし、まずは「足元」を見ることができたようでした。

ゴミの分別やポイ捨ての問題を解決する方法を考えさせたところ、「ゴミ拾いをする」「ゴミゼロの日を決める」「歩きながらでも捨てやすいゴミ箱を作る」などの子どもらしいアイデアが出てきました。

Q：「足元」を意識しながら解決案まで考えられたようですね。では、「つながり」を意識させるためにはどうしたのでしょうか？

活用したのが SDGs です。ただし SDGs という言葉は使わず、「世界がこうなったらいいなあ、とみんなが決めた目標」として、17の目標を子ども目線で書き直して紹介しました(*2)。私自身も SDGs を最初に知った時は難しく感じたので、この「子ども向け SDGs」は効果的だったと思います。



「子ども向けSDGs」と地元の課題を照らし合わせてみると・・・「世界の課題と中沢の課題、同じだ！」と世界の課題をジブンゴトにできたようです。

Q：SDGsをやさしい言葉で紹介してからの展開も教えてください。

「みんなが考えたゴミ問題の解決方法をやってみたら、どの目標を達成できるかな？」と問いかけて、世界の課題・目標と自分たちがつながっていることに気づかせようと思いました。

Q：子どもたちの反応は？

4年生なりに考えて、ゴミ問題と8つの目標とのつながりを見出しました。さらに、「一つの目標を達成すると、パズルみたいにつながって色々な問題に取り組めると思う」「気がいたら中沢と世界や、目標同士がつながっていた」など、地元を意識しながらつながりも感じてくれたようです。日頃の生活や授業でも、「つながってるね！」という言葉が普通に飛び交うようになり、すごく嬉しく感じています。「足元」と「つながり」を意識させながら SDGs を活用したことで、世界の課題を「ジブンゴト」にできたのだと考えています。



付せんを使ってアイデア出し！

*1(参考サイト)JICA フォトライブラリー : <https://www.jica.go.jp/pictures/>

*2(教材)子ども向け SDGs: 東京都市大学 佐藤真久教授の助言のもとに作成。



まずしい人をなくそう



食べられなくてえいようが足りない人をゼロに



みんながけんこうで安心してらせるように



みんながよい教育を受け、学習できるように



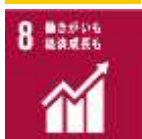
男の人でも女の人でも大人も子どももみんな同じ



みんながきれいな水やトイレを使えるように



安くてもいつでも使えるエネルギーをみんなに



みんながやりがいのある仕事をできるように
けいざいも成長していくように



さいがいがあっても大じょうぶな水道・ガス・電気・交通などをつくり、
社会がどんどん元気になるように



どの人も、どの国も、みんな同じ



だれにとっても安全で住みやすいまちづくりを



むだにしない、作りすぎない。食べ物もしげんも。



変わりやすい天気や、それによるひがいがなくなるようにできること



海の生き物を守ろう



森林や陸の生き物を守ろう



平和で、みんながおなじようにくらせる社会を



これらの目標に向かってみんなで力を合わせよう

SDGs

～わたしたちが目指す世界～2030年までの17の目標～

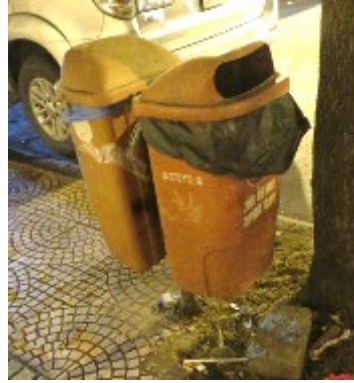
1

自然豊かなベトナム。
その農村地域や
都心部にて見つけたごみ箱の
写真を児童に 10 数枚見せながら
写真を見てどう思ったか
付箋に書いてもらいました。

【授業で活用した写真（一部）】

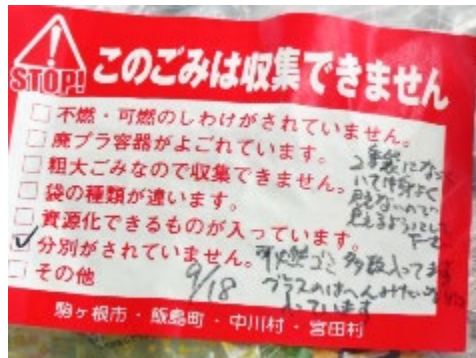


一見美しい光景や
しっかり設置されたゴミ箱でも
中を見てみると
分類されていなかったり
ゴミ箱の周りにも
ゴミが散乱していたり…。



2

「この国、汚い！」…「本当かな？」とネットや図書資料から、様々な地域のゴミ箱・ゴミの様子（ネガティブなところ） 8 枚ほど、そして、日本・地元・教室のゴミ箱・ゴミの様子（分別がしっかりできているところ、ネガティブなところ） 8 枚ほどを見せ、また付箋に思ったことを書いてもらいました。



3

そうすると、できているつもりでも、日本もベトナムや他の国と同じように「ゴミの問題」があったことを発見。自分達にも関わっていることだ、という意識に。ここで児童向けに書き替えた SDGs ゴールを「世界がこうなったらいいなあ、とみんなが決めた目標」として紹介。

ごみ問題が解決したら、SDGs のどの目標が達成できるかな？と問うと「一つの目標が達成されると、パズルみたいに他の問題もクリアする！」とゴール同士のつながりや、遠く離れた国々と自分の住む町の関係性まで見えてきました。

「世の中には問題がいっぱい！」という想いで授業を終わらせたくなかったので、最後はゴミ問題を解決している世界各国（途上国含む）を写真で紹介し、「世界あちこちから解決方法を学べるね」とまとめました。

ネパール

シンガポール

ドイツ

インドネシア

